



10.10.04.10

「信心が伝わるきっかけ」

今回は鶴見教会の斎藤友子先生にお話をお伺いしました。

斎藤先生が六才の頃に、母親が友人に勧められて入信、先生も一緒に御参りされていたそうです。少年少女会やガールスカウトに入隊し、勤めを始めてからもガールスカウトのリーダーの御用を続けられていました。昭和四八年に教師の補命を頂かれ、三十五才で結婚されるまでは、教会に住み込みでの御用をされてきました。

☆教会で御用なされて、どんなことを思われましたか。

『小さい頃からお参りさせて頂いてたので、驚くということはありませんでした。でも、常に教会にご信者さんがお参りされて、お正月などは教会長と交代で夜中も御用させて頂いたりということもあつたりで、教会は大変だなと思いました。また、忙しいので、家族で出かけた時、一緒に食事したりということが出来ないのです、お子さん達はかわいそうだな、と思ってました。』

☆三十五才で結婚されたのですが、ご主人は

未婚者の方だったんですよ。

『そうですね。金光教とは全く関係のない人でした。今は教会行事に積極的に参加してくれたり、御用のお手伝いをしてくださいします。多分、私の病気の事もあつて、思うところがあつたのでは。』

川でスベって山でコロんで...とってきました
interview
第9回 斎藤友子先生 (鶴見教会)

☆病気の事ですが、詳しく聞かせて頂けますか？

『まず、子供達(双子)が六才の頃、私は乳がん



になつたのです。おかげさまで手術して二週間で退院させて頂きました。その間、子供の面倒などは、主人の他に友人達が見てくれました。とても

ありがたかったです。

その後リハビリをし、再発もなかったのですが、今度は子供達が四年生の頃にのどにグリグリが出来、どうも甲状腺のガンが出来てしまったようです。これまた手

術して二週間ほど入院させて頂きました。

さらに六年生の頃には子宮筋腫が大きくなり貧血に。先生が「子宮ごと取った方がいい」ということでしたが、手術するとさらに卵巣へもひどく癒着してたらしく、全部取ることになりました。術後がどうなるか心配でしたが、おかげさまで少し手の震えが出たものの、薬で治して頂き、すつかりよくなりました。

☆今はそんな手術したなんて思えない位、元気ですね。

『近年では医療ミスなどのニュースがありますが、自分はおかげさまでそういうこともなく治して頂きました。「生かされている」ということをとても感じ、「自分が御用に使つて頂ける間は生かさせて頂けるのではないだろうか。私に出来ることがあれば、何でもさせて頂こう」と思っています。』

☆先生のその姿勢が、周りの方の信心にも繋がっているのでしょうか。

『「信心してもらいたい」と思つても、家族に伝えるのは難しいですよ。何かきっかけがないと...。子供達は、小さい頃から参らせて頂き、これから先はどうなるかわからないけど、信心させて頂く土台は出来たのじゃないかな、と思います。』

☆ありがとうございます。

(今村則子)

信心研修会 「教祖伝『金光大神』 にみる世界」を開催

去る九月四日(土)午後一時から、歴史を感じ趣のある横浜市開港記念会館で信心研修会を開催、十六教会から六十一名が出席した。

今年は、神奈川山梨布教百十年奉祝期間最終年にあたることから、改めて信奉者一人ひとりが、今日金光教の信心ができることの有難さと喜びを実感し、自らの生き方の中に、金光大神の信心の内容を現し伝えて行くことの大切さを感じるところから、信心研修会開催となった。

信心研修会では、昨春秋に刊行された教祖伝『金光大神』をもとに、金光大神の信心のあり様、内容を学び深めさせて頂きたいとの願いから、東京・本中野教会長浅野善雄師に講師をお願いし、「金光大神の信心を求め現す」と題して講話を頂いた。



講師の浅野善雄先生

講話は初めに、教祖伝はこう頂かなければいけないというものではなく、私はこう頂く、一人ひとりが金光大神

を頂き、信心を現し伝えていくことが願われているところである。との教祖伝に向かう基本姿勢が話された。

そして昭和二十八年に刊行された『金光大神』を「旧」、昨春秋に刊行された『金光大神』を「新」とおさえ、旧新の『金光大神』を比較し、その性格の違いを述べられた。

旧『金光大神』は、教祖の歩まれた足跡、事跡というものを本教の教義とおさえ、主たる典拠は、『金光大神御覚書』と教典編纂委員会が収集した教祖の教えがもととなり、傍証資料は『小野家文書』である。教祖が書き残された内容が真実かどうか、照らし合わせ正確なものであると確認する上から『小野家文書』が用いられた。旧『金光大神』は、資料に忠実であり客観性をもたせた書といえる。

それに対し新『金光大神』は、教祖の事跡を学ぶという旧『金光大神』より一歩進んで、教祖の信心の内容に世界人類救済という天地金乃神の願いが含まれているところから、一人ひとりが理解し、現す信心となつて行く、その糧としての書である。その主たる典拠は『金光教教典』、とりわけ「お知らせ事覚帳」と、今まで蓄積された旧『金光大神』の内容が収められ、収集された資料と研究によって、解釈が施されたのがこの書である。

続いて、講題である「金光大神の信心を求め現す」ことについては、常識を超えた信仰

的価値を求め現わすことが大切である。例えば、教祖が神様の命のままに裸足の行を行ったが、私達は兎角、世間体や見栄を気にして、信仰的価値を現し得ていないところがあると話された。

教祖には、家族の問題、宮建築の問題、それに関わる財の問題等、様々な困難な問題が生じており、その難儀や苦悩を抱えて神に向かわれた。救済者として人を助ける身となつて御用に立たれた、それは、生神金光大神差し向けという、自らが神と同様であるという、その自覚と使命感に基づくものであった。

私達は、今日、教祖伝『金光大神』をとおして、教祖の信心を改めて頂くとともに、現わして行くことがある。神様に願うということとは大事であるが、それとともに、神様から願われているという自覚を持たせて頂き、「人を助ける身となつてくれ。道を広め伝えてくれ」との神様の願いを自らの願いとし、神心を発揮して、「あいよかけよの生活運動」の実践、「神になる。人を助ける。道を広める」との教えを現わして行くことが大切であると締め括られた。



開港記念会館です。

☆ 吉岡裕子氏（鎌倉教会）

読む度に、新たな発見や気付くことがあり、有意義な時間となっている。教祖は、あらゆる場面で神様からお言葉を聞かれ信心を進められた。特にお知らせは、末信奉者には理解しがたいことだろうが、記録に残してくれたからこそ、今日頂くことができるのであり、神様に出会えたことを大変有難く思っている。

教祖は、真実な生き方を貫いた。今の世の中を教祖が見たらどう思うだろうか。現代文明とうまく付き合いながら、自然の道理に基づいた生き方、心を神様に向けた生き方を今後して行きたい。

☆ 高橋正登氏（生麦教会）

パネラーの依頼を受けたものの、読むことが重荷になっていた。ある日、車で会社に行く途中交通事故に遭い、事故故にも関わらず入院することなくおかげを頂いた。神様が重態だとパネラーの御用ができないので、軽くして下さった。また家で休養している間、教祖伝を読む時間が頂けた。神様の大きいなる思いを感じる。

教祖伝を読む前は、神様が、なぜ教祖を選ばれたのか分からなかったが、教祖伝を読んでみて訳が分かった。読むことができたことは、大変有難かった。

☆ 山田尚子師（横浜西教会）

教祖の大好きなところは、優しいところ。「くずの子ほどかわいいのが親の心」と言っておられ、くずの子が助かるということが難しい世の中で、そのことを嬉しく思う。また、利益を目当てにする神ではない。貧しい人でも助かることができる。そのことに、教祖の優しきを感じる。更には、女性の立場を理解され、励まし立ち行くようにして下さったことも有難いこと。

次に、強いところが好き。神様の言われるままに従われ、ひたすら貫かれた。本当に優しい人は、本当に強い人と思う。

金光大神は、私達に何を願っておられるのか、人を助けて神になることである。今日から生神の道を歩ませて頂き、大好きな教祖様に喜んで頂きたい。それが、これからの助かりに繋がるのではないか。

☆ 福田光一師（南甲府教会）

教祖は晩年になっても、ひたすらに神様を頂ききったところに注目させられる。才崎教会の初代とのやり取りをみても、強く感ずるところであり、特に教祖の死のお知らせを、それぞれの直信が受けられているところに感銘を受ける。才崎の初代は、信ずる神と書いてしんじんと読んでいます。現在PTAの会長をしているが、どこで

もお役に立ちたいとの思いと同時に、教祖の教えを伝えたいとの願いを持って御用している。五本の指の話やあいよかけよの話等を折をみてさせて頂いている。

神様と教祖様を日に日に頂き、頂き直す稽古をすることによって、信心が進んで行く。この教祖伝が全てではなく、一人ひとりが、金光大神の本を出すぐらいの信心が進んで行ったらよいのではないか。

パネルディスカッションでは、それぞれの思いや実践している内容を出し合い、午後四時三十分、信心研修会を終了した。

教祖伝を頂くだけに留まらずに、自らの信心のあり様を確かなものに導いていくとともに、神様の願いを受け現わし伝えて行くという、そのお役に立つ大切さを改めて教えられた。

（南 清孝）

観音崎に行ってきました！！



8月14、15日の両日、観音崎青少年の村でキャンプ集會をしました。2日目は雨でしたが、皆で楽しかったです。

生神金光大神大祭日程

教会名	日程	時間	教会名	日程	時間
津久井	10月16日(土)	午後1時30分	相模原	11月3日(祝)	午後2時
横浜西	10月17日(日)	午後1時30分	子安	11月7日(日)	午後1時30分
甲府	10月17日(日)	午後1時30分	鶴見	11月11日(木)	午後1時
登戸	10月24日(日)	午後1時	大磯	11月14日(日)	午後1時
大明	10月28日(木)	午後1時30分	川崎	11月18日(木)	午後1時
鎌倉	10月30日(土)	午後1時30分	平塚	11月19日(金)	午後1時
武蔵小杉	10月31日(日)	午前11時	野毛	11月20日(土)	午後1時30分
併せて開教30年記念祭			小田原	11月23日(祝)	午後2時
横須賀	11月3日(祝)	午後1時30分	神奈川	11月27日(土)	午後1時30分
生麦	11月3日(祝)	午後1時	藤沢	11月28日(日)	午後1時30分
丸子	11月3日(祝)	午後1時	南甲府	未定	

— 東京センターよりお知らせ —

☆公開講座 こんこうセミナー
 金光大神の宗教運動と現代
 — 「民衆宗教運動の神学」 事始め —
 日時：11月6日(土)
 14時～16時
 講師：渡辺順一氏
 (元金光教教学研究所部長)
 会場：金光教センタービル3階
 参加費：300円

やまがみ通信

☆こんこう平和集会セミナー
イラク戦争下の世界情勢から、戦争と平和について考える
 日時：11月13日(土)
 14時～16時
 会場：金光教センタービル3階
 内容：ビデオ鑑賞と懇談会
 「アラブの人々から見た自衛隊イラク派遣」
 「ノーム・チョムスキー」
 イラク語の世界を語る
 お問い合わせは金光教東京センター
 03-3818-6321まで

〈な・が・れ〉

ひとこと『猛暑のなかで』

登戸教会 南 清孝

今年の夏は、例年になく暑かった。猛暑というより極暑という言葉が似合う。生まれて初めて、摂氏三九度を超える気温を体験し、毎日三四、五度の気温が続いても、さほど暑いと感じない程、身体が暑さに慣れていた。テレビでは、世界各地で異常気象による災害の状況が報道され、地球上における温暖化現象に対して、警鐘を鳴らしている。人間の無力さと天地全てを生かし育んで下さる天地金乃神様への人間の無礼さを感じた。先日、教会周辺の遊歩道の清掃を行った。今年は何年と比べると、飲料水のカンやペットボトル、食べた物の容器や袋といったゴミは少なかったものの、多かつたのがタバコの吸殻である。最近、携帯用の灰皿を持っている人を見かける。良い心掛けと嬉しく思う。昔は、お土地は神様のお身体であるから、お土地を汚しては相済まないという気持ちが強かった。今日ではどうだろうか。この夏の暑さは、神様のお身体に火傷をさせたことへのシツペガエシではないだろうか。清掃をしながら思わされた。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 南 清孝

編集責任者 横山光雄

川崎市多摩区生田五・二四・九

金光教登戸教会内